出前講座などのご案内

お住いの地域にうかがってカンムリウミスズメについて画像を使って紹介したり、楽しみながら学べる展示をしたり、オカリナ奏者の善久さんにご協力いただいてコンサートを開催したりといったカンムリウミスズメを知っていただく活動を行なっています。

ご興味のある方は、保全プロジェクト推進室にお問い合わせください。

【お問い合せ先】
TEL 03-5436-2634

展示
パネルやクイズ、さわれる展示などを使ってカンムリウミスズメの生態や海洋の環境問題、保護活動について紹介。地域の博物館などと連携したり、イベントなどへの出展もしています。

観察会・出前講座
実際に海に出てカンムリウミスズメを観察します。講演会や学習会を合わせてや別個に行ない、生態や海洋の環境問題、保護活動について詳しく紹介しています。

ご支援のお願い

カンムリウミスズメの保護など当会の活動は皆さまからの会費やご寄付によって支えられています。気軽にご支援いただけるよう、さまざまな形でのご寄付・ご支援の方法をご案内させていただいています。野鳥が暮らす豊かな自然を守るための活動に、ご協力をよろしくお願いいたします。

◆お申し込み・お問い合わせは会員室へ
TEL：03-5436-2630
FAX：03-5436-2636
メール：kifu@wbsj.org
https://www.wbsj.org/join/
（10:00～17:00　土日祝定休）

バードメイト
一口1000円の自然保護！
オリジナルピンバッチの
プレゼント付き寄付

最新情報はこちら

カンムリウミスズメの保護活動の最新情報や調査結果の速報、特徴や生態などをホームページやSNSでお知らせしています。日本野鳥の会ホームページからTwitterやYouTube、Facebookページにリンクをしています。
（当会の活動 - 自然保護 - 絶滅危惧種の保護 - カンムリウミスズメ　https://www.wbsj.org/nature/kisyou/sw/）

カンムリウミスズメ保護事業
2018年度活動報告書

公益財団法人日本野鳥の会
保全プロジェクト推進室
東京都品川区西五反田３丁目９番23号 丸和ビル
TEL 03-5436-2634　FAX 03-5436-2635
2020年3月31日発行

公益財団法人日本野鳥の会
カンムリウミスズメ保護事業
２０１８年度　活動報告書

Annual Report 2018

日本野鳥の会は、1995年度から三宅島周辺に生息するカンムリウミスズメの調査を三宅島自然ふれあいセンター・アカコッコ館を拠点に行なってきました。創立75周年を迎えた2009年度からは、伊豆諸島に活動範囲を広げ、残された繁殖地の保護、営巣地の増加や営巣環境の改善を目指して事業を進めています。

トピックス

- カンムリウミスズメ・チャリティーコンサートを開催しました
- カンムリウミスズメの人工巣に新展開がありました

2018年度、当事業はＦ氏カンムリ基金および皆様からのご寄付で実施いたしました。

公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

三宅島でカンムリウミスズメ・チャリティーコンサートを開催

当会の活動に賛同しカンムリウミスズメをテーマとした曲「鳥の歌～カンムリウミスズメのテーマ」を作ってくださった世界的オカリナ奏者の善久(Zenkyu)さん（指揮、オカリナ）と、本橋マユミさん(ピアノ)、善久(Zenkyu)さんが指導をされている善久(Zenkyu)オカリナ合奏団（ZOG）のみなさん(51名、オカリナ)、ZOG応援者のみなさん(16名)、鈴木真由美さん（ZOGプロデューサー）の合計70名を三宅島にお招きして、6月9日に三宅村文化会館でコンサートを行ないました（協力：上遠野音楽事務所）。このイベントは、三宅島自然ふれあいセンター・アカコッコ館の「三宅島バードアイランドフェスティバル」の一環として行なわれ、島民他92名の方が参加しました。

櫻田昭正村長よりご挨拶をいただきました

三宅島村長の櫻田昭正様にご挨拶いただきコンサートが開幕。前半は、善久(Zenkyu)さんと本橋さんによるすばらしい演奏が行なわれ、その合間にカンムリウミスズメの暮らしや、当会やアカコッコ館が行なっている活動について紹介しました。後半は、善久(Zenkyu)オカリナ合奏団のみなさん（51名）による合奏をしていただきました。51台のさまざまな種類のオカリナが織りなす演奏は多くの方が聞いたことがないもので、これまでのイメージと違った演奏に感動をしていました。終了後、当会のカンムリウミスズメ保護事業へと善久(Zenkyu)さんたちからご寄付をいただきました。

善久(Zenkyu)さんと本橋さんによる演奏

善久(Zenkyu)オカリナ合奏団（ZOG）による演奏

当会のカンムリウミスズメ保護活動の紹介

コンテナボックスを使った人工巣に新展開！

2016、2017年に繁殖に使われたU字溝を使った２つの人工巣は岩場と組み合わせて作っていたのですが、その岩場が2017年秋に神子元島を襲った大型台風の影響で崩れてしまいました。地面の様子や巣の奥行が変わっていましたが、欠けてしまった部分に岩を置いて2018年2月4日に同じ場所にU字溝を再設置してみました。また、産座の素材を変更し、巣内温度を下げるための工夫を施したコンテナボックスを使った人工巣も設置しました。今回はU字溝型6個とコンテナボックス型12個を設置し、カンムリウミスズメの到来を待ちました。

6月14日に今期の利用の最終確認をしました。利用実績のあるU字溝型人工巣は今回も使われていましたが、どちらの巣も未ふ化の卵が残されていました。内1つは、センサーカメラの画像から片親がカラスに捕食されてしまったらしいことがわかりました。残された親が最後まで抱卵に来ていましたが結局ふ化しなかったようです。原因としては、どちらの巣もこれまでと違い卵がある場所がかなり濡れていたことから、岩場の形が変わったため水が流れ込むようになってしまったのではないかと考えています。コンテナボックス型の人工巣は明らかな利用痕跡はなかったのですが、センサーカメラを確認すると4月中旬以降に何度も出入りをする姿が記録されていました。ついにコンテナボックスを使った人工巣がカンムリウミスズメの目に留まったのです！来シーズンには産卵、ふ化をしてもらえる人工巣の完成を目指してデータの収集、評価を進めました。

残念ながらふ化しなかった卵

コンテナボックスを使った人工巣をのぞき込むカンムリウミスズメ

カンムリウミスズメクイズに挑戦！

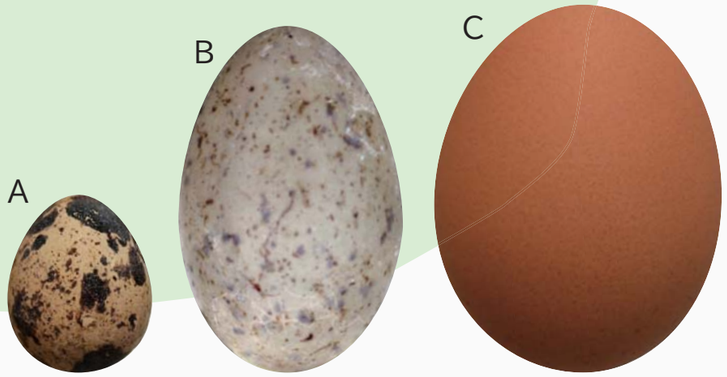
Q.1 カンムリウミスズメの学名はどれでしょうか？

A. *Synthliboramphus antiquus*
B. *Passer montanus*
C. *Synthliboramphus wumizusume*

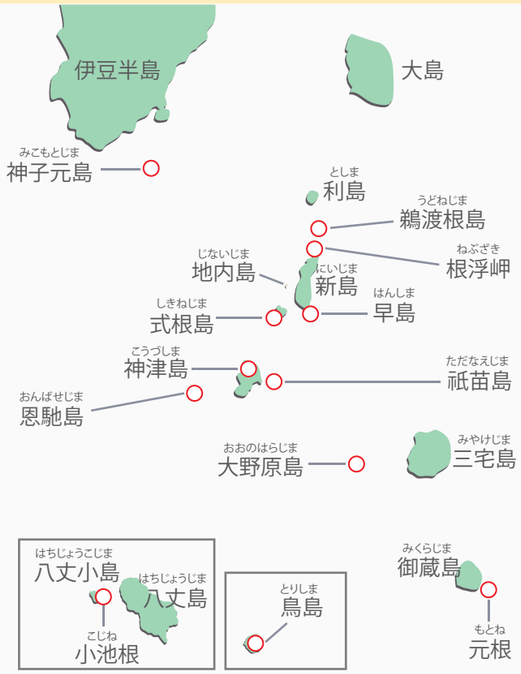
Q.2 カンムリウミスズメのヒナはふ化してから何日くらいで海に出るでしょうか？

A. 1～2日位
B. １４日位
C. ３０日位

Q.3 下の卵の写真は実物大です。体長24cm（シルエット）くらいの大きさのカンムリウミスズメの卵はどれでしょうか？



Q.4 右の地図の◯印は、これまでに伊豆諸島で見つかったカンムリウミスズメの繁殖地です。このうち、今も繁殖が行われている島の◯印に色をぬってみましょう。繁殖が続いている場所はいくつあるでしょうか？



クイズの答えは最後のページに書いてあるよ！

この報告書やこれまでの報告書にカンムリウミスズメのことが書いてあるよ！これまでの報告書はホームページで見られます。

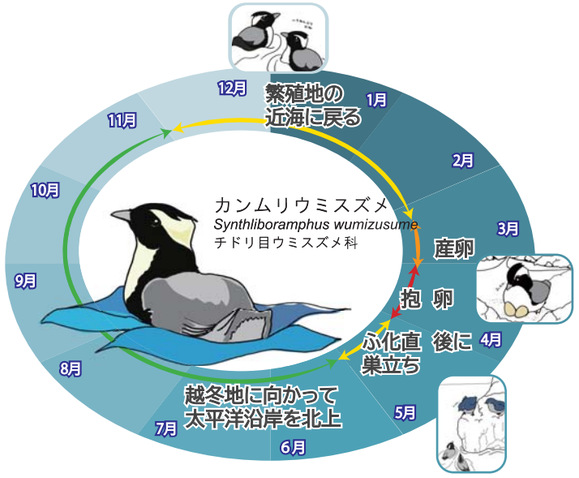
ホームページアドレス　https://www.wbsj.org/nature/kisyou/sw/index.html

カンムリウミスズメの謎にせまる

カンムリウミスズメはどこへ行く？

2017年に神津島村の祇苗島で9羽に、下田市の神子元島で2羽にジオロケータを装着しました。この機械は1年後に同じ個体を再捕獲してデータを回収する必要があります。幸い2018年に各島1羽ずつ回収することができました。

機械に記録された日長や日の出日の入りの時間から、いつどこの地域にいたかが推定できます。神子元島の個体は、ヒナが巣立つ5月は繁殖地からそれほど遠くない海上で過ごし、その後、徐々に太平洋岸を北上し、10月にはオホーツク海まで行っていました。2月にいったん日本海側に移動した後、太平洋側を南下し繁殖地に戻ったようです（図1）。祇苗島の個体は、2月に日本海側にいた以外はどこにいたのかがわかりませんでした（図2）。これは、機械を足（跗蹠）に装着するため、状況によってうまく光を受容できないことがあったためと考えています。次年度以降、引き続き残りの機械の回収に取り組み、事例を増やすことにより各島の個体の動きを把握したいと考えています。



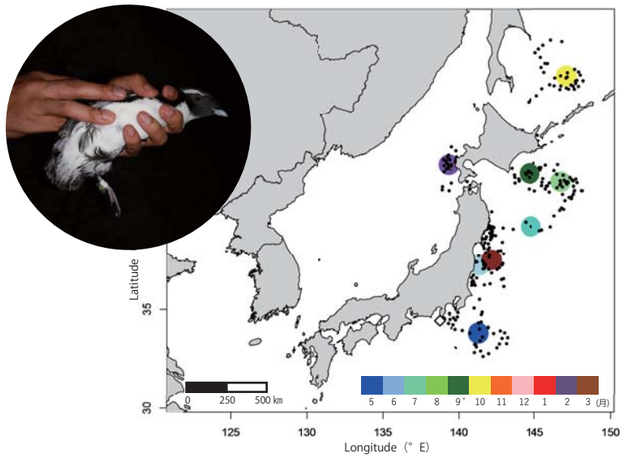


図1. 神子元島
◇が島の位置を示す

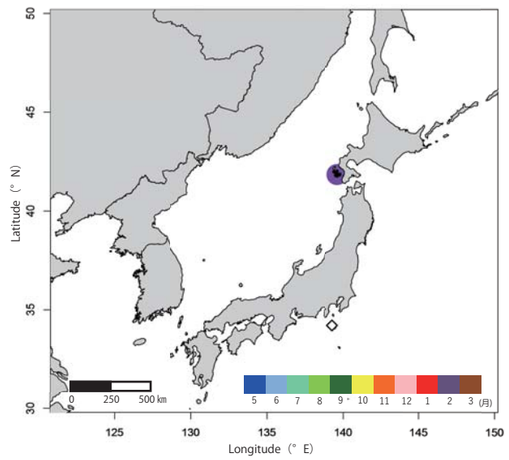


図2. 祇苗島
◇が島の位置を示す

カンムリウミスズメは何羽いる？

カンムリウミスズメは世界に5,000~10,000羽いるといわれています。しかし、正確な数はわかっていません。そこで私たちは伊豆諸島の各繁殖地で個体数調査を行なってきました。今回は、三宅島の大野原島（通称：三本岳）で初めて、日の出前に調査を行ないました。大野原島は、根が複雑で、海流も早く危険なため夜間の遊漁は禁止されています。今回は大野原島のカンムリウミスズメの保護のためということで特別に漁業組合から許可をいただき調査をすることができました。

海況不順のため3回計画した内2回しか調査ができませんでしたが、島を3周し、各周で確認された個体数を集計したところ、3/26には最大490羽、4/19には最大305羽が記録されました。1995年から三宅島自然ふれあいセンター・アカコッコ館で行なってきた日中の調査の最大個体数は220羽でしたが近年は数十羽しか記録がなく、この島でのカンムリウミスズメの繁殖状況が心配されていました。しかし、今回の調査で、まだある程度の規模で繁殖個体数が維持されていることがわかりました。また、個体が確認できた各ポイントで記録された個体数を丸の大きさで表したところ、左図2の通り、島の北東側に多く分布しており、子安根や大根といった比較的大きな島が利用されている可能性が示唆されました。

図1. 第三英丸の船長さんと調査スタッフ

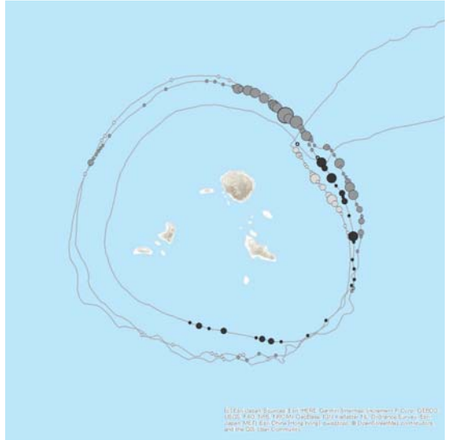


図2. 3/26に確認されたカンムリウミスズメの位置
丸は位置を、丸の大きさは個体数を表す

カンムリウミスズメはどこまでエサをとりに行く？

カンムリウミスズメが繁殖地でどのような行動をしているかを知るために、GPSロガーを用いた利用海域調査とDTロガーを用いた潜水深度調査を行ないました。カンムリウミスズメにつけられるのはバッテリー式の軽いロガーなので、1回あたり3日くらいのデータしかとれませんが、抱卵交代を1~3日毎に行うので上手くいけば一往復分の採餌トリップのデータを得ることができます。

祇苗島でDTロガーを1羽とGPSロガーを2羽に、神子元島でGPSロガーを1羽に装着しました。初めて実施する調査のため、帝京科学大学の森先生に装着方法等を教えていただきました。今回は再捕獲ができず、データを得ることができませんでしたが、方法についていくつかの知見を得ることができ、今後につながる調査となりました。

※捕獲をともなう調査は、環境省をはじめ関係機関の許可を得て実施しています。
※ロガー装着用のテープを「テサ テープ株式会社」にご提供いただきました。記してお礼申し上げます。

カンムリウミスズメの巣はどこにある？

早朝の洋上個体数調査では、300羽以上のカンムリウミスズメが確認されている新島の地内島ですが、島内での営巣が確認できていません。今年度は、これまでアクセスできなかった場所に泳いで上陸し、カンムリウミスズメの巣を探しました。

海から見る限りかなり可能性がありそうな場所でしたが、岩の隙間、草の根元などを3人で手分けをして見て回りましたが、人がいける範囲では巣を見つけることができませんでした。この島にはカンムリウミスズメの捕食者である大型のネズミが移入してしまっているため、もしかしたらアクセスが難しい場所にだけ巣があるのかもしれません。数年にわたり踏査を行なってきましたが、この島で巣を見つけるにはアクセス困難な場所の調査方法を考案する必要があると考えています。

カンムリウミスズメを紹介する

三宅中学校でのカンムリウミスズメ授業

繁殖地の大野原島（三本岳）がある三宅島ですが、カンムリウミスズメを見たことのある人は漁師など限られています。そこで島民にもっとカンムリウミスズメの事を知ってもらおうと、2013年度からアカコッコ館の主催行事として中学生を対象に、講義と観察会をセットにしたカンムリウミスズメ学習会を実施してきました。学習会は、2017年度から中学校の総合学習で実施することになり、より多くの生徒がカンムリウミスズメを学ぶことになりました。

2018年度の授業では、中学1年生を対象に4月19日に学校で講義を行ない、映像を用いてその特徴やおかれている状況、三宅島での1950年代から続く保護活動の歴史を伝えました。そして4月23日はいよいよ観察会です。漁船に乗り、カンムリウミスズメがいそうな潮目に注目しながら、繁殖地である三本岳に向かいました。90分ほどの観察で77羽のカンムリウミスズメやオオミズナギドリなどの海鳥を観察することができました。三本岳では1950年代のアメリカ軍による爆撃演習の痕跡も確認しました。生徒からは「実際に見ると予想よりもはるかに小さく可愛らしかった」「またカンムリウミスズメを見に行きたい」「海を大切にしてカンムリウミスズメやほかの生き物にも良い環境をつくってあげたい」といった感想が寄せられました。

質問も積極的に出た講義

大野原島での説明の様子

2018年度の主な活動

4/19	三宅島・大野原島	早朝の洋上個体数調査
4/19、23	三宅島・大野原島	三宅中学校のカンムリウミスズメ学習会の対応
4/21 - 23	神津島・祇苗島	ジオロケータ・GPSロガーの装着・回収
4/24	神津島・祇苗島	カラス類の飛来確認調査
4/28 - 30	下田市・神子元島	ジオロケータ・GPSロガーの装着・回収
5/15	下田市・神子元島	ジオロケータ・GPSロガーの回収
6/ 9	三宅島・大野原島	カンムリウミスズメ・チャリティーコンサート
6/14	下田市・神子元島	人工巣の利用確認調査
	…U字溝を使った人工巣2つで4卵を確認したが全て未ふ化	
6/25 - 26	新島・地内島	繁殖地確認調査
11/25	下田市	教育委員会主催講座にて講演
11/26	下田市・神子元島	人工巣の設置（コンテナ17個,U字溝9個）
2/12	福岡県・烏帽子島	人工巣の初設置（コンテナ5個）
	…神子元島で試行をしていた人工巣を初めて他の島に設置	
	※長崎大学と北九州市立いのちのたび博物館と連携して実施	
3/25	下田市・神子元島	人工巣の利用確認用センサーカメラのメンテナンス

下田市教育委員会の講座の様子

人工巣を持って烏帽子島に登る

カンムリウミスズメクイズの答え

A.1 C

カンムリウミスズメの学名は、*Synthliboramphus wumizusume* といいます。
なぜか "*wumisuzume*" ではなくて "*wumizusume*" という表記になっています。
ちなみに、Ａの*Synthliboramphus antiquus*はウミスズメ、Ｂの*Passer montanus*はスズメの学名です。

A.2 A

繁殖が始まる時期は島によって少し違いますが、カンムリウミスズメは繁殖が始まる少し前に巣をつくる島の近くに戻ってきます。営巣のために島に上陸し、岩の隙間や草の根元にできたくぼみなどで1から2個の卵を産みます。１カ月ほど卵を抱くと、黒い綿毛の様なヒナが孵ります。ヒナはふ化後１～２日ほどで親と一緒に海へと旅立っていきます。最初に親からエサをもらうのは海に出てからです。

A.3 B

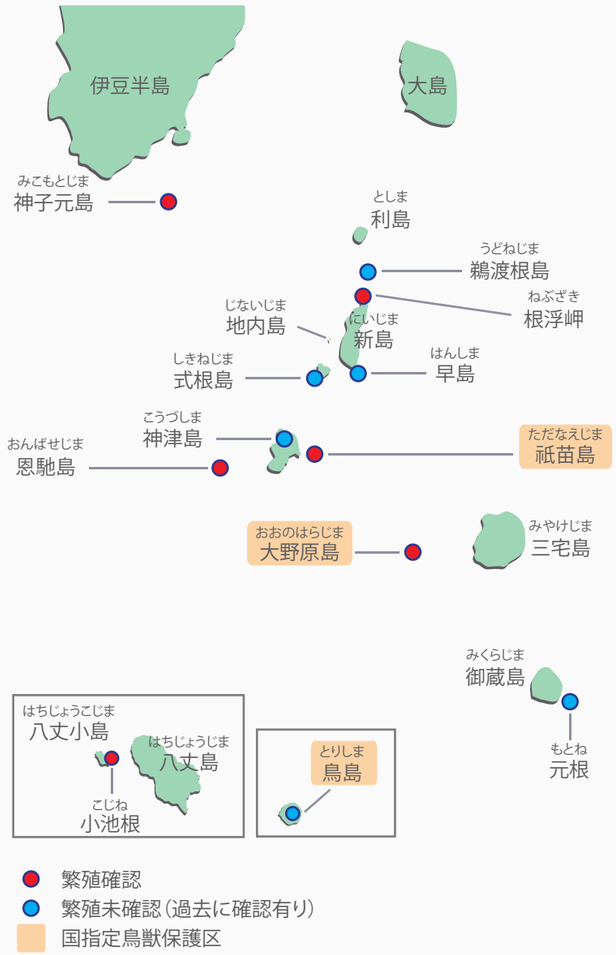
卵は体の大きさに対してとても大きく、卵重は体重の約22%にもなります。他の鳥と比べると（ニワトリの卵重は体重の３%程度、ウズラでも８%程度）、非常に大きな卵を産むことが分かります。
ちなみに、問題の写真Ａはウズラの卵、写真Ｃはニワトリの卵です。

A.4 6カ所

右の地図の赤丸が伊豆諸島の近辺で、今も繁殖をしている場所になります。かつては12カ所の繁殖地が確認されていたので、半減してしまったことになります。
カンムリウミスズメが減った理由：

1. 繁殖地に釣り人などが放置したゴミや撒き餌に誘引されたカラス類や、人の移動と共に入り込んだネズミ 類が新たな天敵となり、卵やヒナだけでなく成鳥も捕食してしまう。
2. 釣りや海洋レジャーの拡大により繁殖地に人が立ち入るようになり、卵やヒナが無造作に踏まれたり、攪乱により親鳥が巣を放棄したりといった影響が懸念される。
3. 刺し網漁による混獲や油汚染によって死亡する。

などが考えられています。



カンムリウミスズメ

チドリ目ウミスズメ科
体長：約24㎝
体重：約160ｇ
分布：日本の近海にだけ分布
一腹卵数：２個（重さ 30~35gくらい）
推定総個体数：5,000から10,000羽
保護指定：絶滅危惧Ⅱ類(VU)（環境省）
Vulnerable(VU)（IUCN）
国指定天然記念物